



おじさんズ通信

2021年3月号 (No.4)

発行元：登別市新生町4丁目桃柿通

緑風舎

発行者：おじさんズ3号

仁義なき戦いだニヤ〜 (2021/2/25)



野良ネコが庭の柿の木に我が物顔で登って、日向ぼっこやストレッチしている。写真は勝手に名付けた「ミルク」と「クロ80%」のいさかい劇。この2匹、夫婦だったような気がしたが。



---- 時事片々 ----

ついに晩節を汚しちゃった

4代目三遊亭圓歌が歌之助時代、落語のマクラで森喜朗元首相を引き合いに出し「あの人は北海道は釧路の出身です」と切り出した、

そのココロは「湿原（失言）が多い」。

釧路地方に住む人々にとっては、迷惑千万な話だが、首相在職期間1年に満たないこの人の失言語録は豊富だ。

「T戦略会議での単語の読み間違い＝「イット革命」、「日本は天皇中心の神の国」「子供を一人もつからない女性を税金で面倒見なさいというのは、本当におかしい」etc.

そして、ついに、やっちゃった。日本五輪委員会臨時評議員会での女性蔑視発言。翌日の謝罪会見がますます火に油で、辞任に追い込まれた。

うむ、これはアレだ、ええ〜っと。2、3分黙考して浮かんだ言葉が

「晩節を汚（けが）す」

されど、人のふり見て我が身を…

しかし、この人の特性は我が胸にも思い当たる。たまに思ったことを、ためらいなく言ってしまう。その場にそぐわない言葉を口にしてヒンシュクをかう。「そんな愚行、無かったとは言わせないぞ」と、過去の言行録がにらんでいます。

にわか評論家、コメンテーターになって批判するのは簡単だが、その資格はないな。まあ、それほど立派な晩節ではないが、これからは、出来る限り、口にチャック!

目で殺されてえ〜

右の俗曲めいた歌、漢詩絶句の起承転結を表す例文とか。

なぜ持ち出したか、というと、このご時世だ。マチで出会うマスクをした女性（年齢層はご想像におまかせ）の大半が美人に見えてくるから不思議だ。アイメイクばっちりの二重瞼にドキッとすることもしばしば。いや、まっこと美人なのかもしれないが。ただし、相手が「いやらしい目つきをしたジイ様だ」と、睨んでくることもあったかな？

新型コロナ騒ぎが早く収まり、マチを歩くマスク姿の人がなくなる日が待ち望まれるのは、当然のことだ。

だがね、終息後には、マスクで隠されていた鼻から下が白日のもとにさらされて、私のマスク美人はどうなる…

おっと、これ以上、言うとは晩節を汚してしまうからやめよう。

それにしても、あれは幻影、幻覚、錯覚だったのか。今度、老人仲間聞いておかなくてはならない。

本所横丁の系屋のむすめ
姉は十八 妹は十五
諸国大名 弓矢で殺す
系屋のむすめは目で殺す

流し目に
ドギマギ ここの目が泳ぐ
不織布の奥に「好き」の
ささやき ありやなしや
(3号)

電子図書館、始めました

登別市立図書館

3月2日、登別市立図書館の電子図書館「デジタル分館」がスタートしました。登別市立図書館のトップページにある案内バナーをクリックすると、開きます。

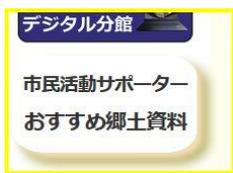


利用できるのは登別市立図書館の利用者カード所有者、登別在住で室蘭、伊達の図書館利用者カードを持っている人など。

デジタル分館のトップ画面を開くと1500冊余りの蔵書が表紙絵付きで紹介されており、一人一点を七日間借りてオンライン画面で読書することが可能です。

実際に借りる場合、ログイン用窓に図書館カードに記されている利用者ID（ハイフンは不要）を入力、パスワード窓に自分の生年月日を西暦8ケタ数字で入力すると入館できます。

詳しくは「図書館通信3月号」に利用方法などの説明が載っています。



「おすすめ郷土資料」も近く新着作成作業に取り掛かる予定です。ともども、ご利用、よろしく、お願いします。



人參アイランドは終焉期

大根サマは健在なれど

昨年12月29日から開始した、人參と大根の切株成長ドキュメント、「おじさんズ」ホームページで配信中ですが、人參アイランドは1月29日にすくくと立っていた葉っぱがうなだれてしまい、目下、終焉期に突入。ゆえにタイトルも「人參アイランドの一生」に変更しました。しかし、周囲を削られ、ペラペラになりながらも、赤い領土はなお死守されています。

一方の大根さまは領土の三分の一、いや半分を失ったものの、根っこがしっかりしているのか、背筋をし

っかり伸ばした四本の葉が「まだ、元気で〜す」と頑張っております。



撮影時刻は、前庭の通りを子供たちが学校に向かう午前7時半前後。1日だけ、3月7日のコマが抜けているのは、誤ってカメラからも、パソコンからも画像を消してしまったから。

ほぼ毎日、水を取り替え、器をきれいにしての記録作業。どちらも、完全消滅まで撮影を続ける予定ですが、ひょっとして、こちらが先に消滅してしまうかもしれない。いや、本当にまじめな話です。



薫風 烈風

▶ なんだ、かんだと言っているうちに、この冬もどうにか生き延びました。感謝、感謝、すべてに感謝！そして、昨年11月中旬から、コロナ禍休みに入っていた1Day シュエフの店「ともかな」が3月から営業再開しました。昨春に続いて2度目の休業にひとまずピリオドです。「旬」は週1回営業の店とはいえ、結構、体を動かすので、増え始めた体重の減量効果に期待大なり。

▶ 昨年夏から、「旬」に顔を出すようになった本多進さん（元日本野鳥の会室蘭支部長、元室蘭市青少年科学館勤務）は今年、88歳の米寿だが、驚くなかれ。先ごろ、室蘭だんパラスキー場で開かれたスキーのスラローム競技に出場したというから、驚き、桃ノ木だ。しかも結果は銀メダル。「へえ〜、すごい」と快挙にびっくりしたが、成人の部に出場したのは2人だけ。それにしても、だ。確か、2回滑ってのタイム争いだっらしい。どなたかが本多さんのことを、こう評していた。「いつまでも少年の心を持っている」と。まさに「高齢者、期待の星。とこしえに！」だ。

▶ 元仕事仲間が、ワクチン接種後を期待して、「花見！ 花見！」を連呼している。しかしな〜。近くの大きな公園は今春も「飲食持ち込み禁止」の気配濃厚だ。こっそり決行して、誰かに後ろ指をさされるやも知れぬ。忍従の春、近し。では〜、お元気で。